

平成 20 年度

「学生地域参画プロジェクト」報告書

茨城大学長 殿

① 代表者	所属・学年	農学部 地域環境科学科 4年
	ふりがな	さくらい りょうすけ
	氏名	櫻井 亮輔

本年度交付を受けた支援経費について、下記のとおり報告いたします。

②プロジェクト名
農から創 ^{はじ} まる地域の環
③活動分野
1 教育・研究 2 ボランティア ③課外活動 ④地域交流 5 国際交流 6 その他
④プロジェクトの地域連携先
あみ自然再生ネットワーク、地元農家
⑤プロジェクトの実施概要
<p>本プロジェクトは、茨城大学農学部が位置する阿見町における「まい・あみ・まつり」でのスイカ販売と「あみ・大好き青空市」での企画、運営協力を地元農家、あみ自然再生ネットワークと連携し実施するものである。</p> <p>「まい・あみ・まつり」でのスイカ販売 阿見町は、スイカの銘柄産地でありスイカ的一大産地であった。かつて品質重視の市場取引で、果肉の歯触り感・糖度への品種改良や栽培技術の追求がされた。阿見町のスイカはそのような時代の中で中央市場を勝ち抜いてきた非常に優れたスイカである。しかし、現在はスイカの品質より栽培時期重視の市場取引になっている。阿見町のスイカは6月中旬から7月中旬にかけ取引され、その多くが中央市場に出荷される。つまり、阿見町では地元産の新鮮なスイカを食べることができない。また、スイカの旬の季節である8月は新潟県や秋田県産のスイカが主流である。このような状況だからこそ、是非阿見町の人に地元農家の作るおいしいスイカを食べてもらいたい。地元のスイカ農家を応援したいということから打ち出された企画である。この企画は、地元のスイカの篤農家協力のもと行う。</p> <p>「あみ・大好き青空市」での企画、運営協力 「あみ・大好き青空市」はあみ自然再生ネットワーク主催のイベントであり今年で第三回をむかえる。この青空市は地元の人たちに地域農業・環境に関心を持っていただき、「地元・阿見町を農業の元気なまちにしたい!」という思いで「地産地消」、「消産連携」を大切に考えるイベントである。この企画に実行委員として参加、企画、運営協力を行う。これは、あみ自然再生ネットワークと連携して行う。</p> <p>この二つの企画の趣旨として</p> <p>①「地元でとれた新鮮で美味しく、安全な農産物を地元で消費することが大切—地産地消」の推進</p> <p>②学生と地域の連携を図り地域を盛り上げる</p>

プロジェクト計画

「まい・あみ・まつり」でのスイカ販売

- ①地元スイカ農家との交流と収穫等の手伝い
- ②「まい・あみ・まつり」でのスイカ販売・阿見産スイカの宣伝

「あみ・大好き青空市」での企画、運営協力

- ①実行委員会への参加
- ②事前準備、宣伝活動を行う
- ③当日の運営協力

このプロジェクトから得られる成果として、

- ①阿見町の「地産地消」推進。農業関係者・地元住民双方から
- ②学生という立場から地元農家や地元住民との交流によりコミュニケーション能力の構築、社会人としての自覚の確立

以上のようなことが期待できると考えている。

⑥プロジェクトの成果

本プロジェクトでは、「地元でとれた新鮮で美味しく、安全な農産物を地元で消費することが大切—地産地消」の推進と地域の農業を盛り上げることを目的とし、「まい・あみ・まつり」でのスイカ販売と「あみ・大好き青空市」での企画、運営協力を実施した。

8月2日、3日に行われた「まい・あみ・まつり」にて、阿見スイカPRを目的とし、大形地区のスイカ農家と連携してスイカ販売を行なった。学生は、農家の畑に行き、実際の農業の現場を体験した。その中でスイカに関する栽培知識や生産者の思い、現代の農業の実情を学ぶことができた。フィールドに出て、農家と交流することは学生にとって大変貴重な機会となった。

スイカ販売では、学んだことを活かし、阿見スイカについてのパンフレットとポスターを作り多くの人に阿見スイカのPRを行った。スイカは636人もの人達に味わってもらうことができた。様々な年代の人々に阿見スイカを味わってもらう中で、学生は阿見スイカの現状や阿見スイカの素晴らしさを住民の方との対話の中で伝え、農業について双方が考える機会を生み出すことができた。また、農家の方の意識も市場ではなく地域に向き合い、栽培意欲を掻き立てることにもつながり、農業振興としての成果が得られた。

11月23日には、阿見町で自然と共にある農業や暮らしの実現に取り組む市民団体である「あみ自然再生ネットワーク」と学生が連携し、市民の手作りの市である「あみ・大好き青空市」の運営に協力をした。学生は青空市の実行委員会や出店者会議へと参加をし、主に資料やチラシの作成等の技術的な面でのサポートを行なった。また、前日・当日の準備や片付けにおいても、テント設営や物品搬入の作業等において学生は活躍をした。青空市の当日は晴天に恵まれ大盛況、2000人ももの来場者があった。市民主導の青空市は阿見町に定着をし始めており、あみ自然再生ネットワークが地域づくりを担っている。その中で、学生の働きは大きな役割を果たしていると言えるだろう。

大学での勉強だけに留まらず、地域に出て実際の地域社会や地域農業の現場に参加し、地域の住民と様々な意見を交わしながらコミュニケーションを図り、地産地消の地域づくりに貢献出来たことは、阿見町に生きながら農学を学ぶ学生としての自覚を持ち、今後の学生生活をさらに充実させるものとなる、大きな成果を挙げることができた。

⑥プロジェクト参加者（代表者を含む。別紙可）

氏名	所属（学部・学科、大学院・専攻名）	学年
櫻井 亮輔	農学部 地域環境科学科	4年
小名木 卓磨	農学研究科 地域環境科学専攻	2年
望月 健太	農学研究科 地域環境科学専攻	2年
山田 晃太郎	農学部 地域環境科学科	4年
	その他 地域交流活動に取り組む学生グループ 20名	